

授業料等不徴収協定に基づく派遣交換終了報告書

所属（本学）	理工学研究科機械制御システム専攻		
現在の学年	修士2年		
留学先国	トルコ	留学先大学	中東工科大学
留学期間	2014年2月6日～2015年2月2日		

① 留学先大学の概略

中東工科大学(Orta Doğu Teknik Üniversitesi)は1956年に創立したトルコ国内では名門の国立の技術大学です。学生数は全体で約27000人であり、トルコ国外からも約1700人の留学生在が所属しています。工科大という名称ですが、社会学、心理学、経済学部、政治学といった文系の学科もあり、いわゆる総合大学のような感じです。原則全ての授業は英語で行われており、所属学科に関係なく、どのレベルのどの講義も取ることが出来ます。基本的に学生は自分の学科に所属する前に一年間の英語のみを勉強するクラスに配属されます。一年間英語を勉強するため、中東工科大学の学生は総じて英語を話すことが出来ます。

キャンパスは大変広く約4500haとありますが、キャンパス内を無料のシャトルバスが走っており、授業に行くときやキャンパス外に出るときなどに利用出来ます。キャンパス内にはショッピングセンター、レストラン、スーパー、銀行、郵便局があり、生活する分には困ることがありません。また各寮や学科塔に食堂が併設されており、様々なところで食事を楽しむことが出来ます。

② 留学前の準備

私は修士1年の2月から留学を始めたため、留学期間を半期または1年にした場合でも、就職活動の兼ね合いから、在学期間を1年延ばすことに決めていました。修士論文の執筆と就職活動は1年後から開始する計画を立てました。

留学することを志したのが比較的遅く、卒研を終えた学部4年の3月頃で、そこから交換留学の申請を4月にし、TOEFLの受験、面接、そして合格通知が来たのが7月あたりだったと思います。そこから、留学先の大学のサイトを読み情報を集めました。特に、派遣先の留學生交流課のページには、キャンパス内の施設の説明、寮の情報、授業の取り方から大学外の町の様子、交通や治安の状況等が書いてあり、留學生生活をイメージする上で役に立ちました。また、東工大の留學生交流課の職員の方に、以前中東工科大に留学していた方の連絡先を教えてください、留學生生活についての疑問点を聞きました。一度行ったことがある方に聞くと概ね疑問点は解消されますし、アドバイスも貰えるため、何か疑問点がある場合には経験者の方に聞くことが良いと思います。

留学先では、専門分野と違う講義を取ろうと思っていたので、その分野に関する教科書を一通り勉強しました。また語学に関しては、交換留学の派遣が決まるまではTOEFLの勉強のみしていました。私が初めて交換留学の申請をするために受けたTOEFLの結果が30点とかなり低い点でしたが、二ヶ月程集中して対策をしたところ最終的に基準スコアを超えることが出来たので、TOEFLのスコアが低くても諦めないことが重要だと思います。

留学先では研究室には所属せず、講義のみを取ろうと計画していたため、指導教員と連絡を取ることはしませんでした。主に、自分が所属する専攻のページに行き、どの講義を取るかを考えていました。

ビザに関しては、留学先の大学から入学通知書が届いてから取得しました。トルコの学生ビザは申請してから3日後に取ることが出来ました。しかし、この学生ビザはトルコ入国から90日のみ有効で、トルコに着いてから90日以内に現地の移住許可書を取らなくてはなりません。春学期は学校側が代理でこの手続きをやってくれましたが、後半の秋学期は居住許可の制度が変わり、自分で警察署に行き手続きを行わなければならない、かなり骨の折れる作業でした。

現地での住居は、大学が留學生に対して寮を用意してくれていたため、事前に寮の希望だけで簡単に寮に入ることが出来ました。中東工科大は学内に多くの寮がありますが、留學生は比較的新しい寮に入ることが出来ます。また寮にも種類があり、一人部屋から四人部屋、トイレやシャワー共同か等選べる事が出来ます。もちろん種類によって値段も変わります。

すが、一番安いところで月1万円弱でした。これは光熱費、通信代込です。寮以外にも住居の選択肢があり、キャンパス外のアパートを借りて、住むことも出来ます。大学の近くは住宅街となっており、中東工科大の学生が多くそこに住んでいます。大学内の寮の掲示板やFacebookのグループ内にルームメートを募集している学生が多くいたので、寮以外に住むことも比較的容易だと思います。

③ 留学中の勉学・研究

前期・後期共に自専攻から一科目、他専攻から一科目の二科目ずつ履修しました。専門分野に関しては、馴染みがあるものの、授業内の課題がかなり多く、課題をこなすことにはかなりの時間が費やされました。この課題の多さは私が履修した全講義に共通しており、また同じ専攻の学生に聞いたところ、どの講義も課題が多いらしく、東工大の講義とはかなり違うと実感しました。課題をこなすことは大変ですが、その分理解の向上にもつながったと思います。また教科書や参考文献は全て英語のもので、初めは英語に苦しめられましたが、一月程で慣れました。中々英語の教科書やサイトは取っ付きづらいですが、そちらの方が日本のものより分かりやすく解説していることが多くあることに気づきました。こういったことを知れたことは良かったと思います。

私は以前から通信工学系に興味があり、留学を利用してこの分野の勉強をすることにしました。前期は学部四年レベルの講義を取りましたが、日本で予習をしたとはいえ、ついていくのにかなり苦労しました。前述の通り、課題も多く平日は図書館にこもり勉強していました。中東工科大学の図書館は設備がかなり整っており、勉強するには良い環境でした。後期は大学院の科目にチャレンジしましたが、かなりレベル高く、分からないことは早めに先生に質問することを心がけ、疑問点をなるべく早く解消に講義に置いて行かれないようにしました。単位を取れたことは自信にもつながりました。

履修科目： ・Digital Signal Processing ・Telecommunication II
・Signal Analysis and Processing ・Communication Theory

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

基本的に平日は、キャンパス外にはあまり出ることはありませんでしたが、ルームメートや寮の友達と料理を一緒に作って食べたり、寮に共有スペースのようなところがあったので、ここでお茶を飲みながら話したりしていました。トルコはイスラム教徒が大多数の国ですが、大学の学生はリベラルな人が多く、そのような学生とトルコという国やイスラム教について話すことが非常に面白かったです。また週末は寮の友達や留学生とバーに行き飲みに行ったりしていました。学内にはお酒は売っていませんが、キャンパスを出たすぐのところに酒屋がありますし、乗り合いバスを10分程乗ったところにレストランやバーが集まった町もあり、飲み会が出来ないということはありません。また、ENSという大学の留学生交流サークルが留学生を対象としたパーティを頻繁に開催しており、そこに参加し、他の留学生と交流をしていました。加入していませんでしたが、大学の日本語サークルの部員と友達になり、一緒にご飯を食べに行ったり、アニメを見たりしていました。初めから相手が日本について興味があるため、すぐに仲良くなれると思います。アニメや漫画の話題が多かったですが、中には日本の歴史や経済事情まで詳しい学生もおり、自分の無知さも気付かされ、良い経験だったと思います。

アンカラには、アンカラ日本人会があり、定期的にアンカラ在住の駐在員の方や大使館の職員の方と飲み会や各種イベントが行われており、それに出来る限り参加しました。就職活動の一環ではないですが、年代の違う様々な企業の方の話を聞くのは純粋に面白く、今後のこういったキャリアを積んでいくかということを考える時に参考になると思いました。

学期間の夏休みを利用し、トルコ国内と東南アジアを旅行しました。旅行中での現地の人々との出会いは留学とは違う面白さだと思います。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

留学と通じて自分の精神的な欠点を認識し、それを変える努力をしていることが自分の中の成果だと思います。基本的にトルコ人は、困ったことがあるとすぐに助けてくれて、非常に親切です。しかし、それが日常的になってしまえばと、それが当たり前のように感じようになり、あまり感謝しなくなったり、その親切さをおせっかいだと感じ、鬱陶しく思うこともありました。このように彼らの好意を素直に受け取れない、自分の心の狭さを痛感しました。生まれてきてから培ってきた性格のため、すぐに治すことが難しいですが、少しずつ変え気持ち良くお礼を言えるようになりたいです。語学力の向上など成長を実感した場面は他にもあ

りましたが、考え方が変わるということは中々難しいことだと思います。トルコ留学という特殊な環境だったからこそできたものではないかと考えています。

⑥ 留学費用

- ・渡航費: 60,000 円(片道)
- ・住居費: 9,500 円/月(光熱費、インターネット通信費込)
- ・生活費: 30,000 円/月

毎日自炊していたわけではないので、自炊をすればもっと費用を抑えることができると思います。

- ・保険料: 約 130,000 円/年
- ・奨学金: 80,000 円/月(JASSO の留学奨学金を半年間頂きました。)

⑦ 留学先での住居

キャンパス内に寮が多くあり、その内の一つの寮に住んでいました。学期が始まる前に現地の留学生交流課の職員の方から寮の申し込み用紙の pdf ファイルがメールで送られてくるので、それに希望の寮を選択し返信するだけで寮を確保することが出来ます。学内の寮は人気ですが、留学生を優先して入れてくれるようなので、申し込みをすれば入ることができると思います。私が住んでいた部屋は4人部屋で前期は自分以外3人トルコ人、後期はトルコ人2人とアゼルバイジャン人1人という構成でした。勉強(生活する)部屋と寝室が別れていたため、生活リズムの違いによるストレス等はなく、快適に過ごすことが出来ました。シャワーとトイレは共同ですが、清掃員の方が定期的に掃除をするため、清潔さに関する不満はありませんでした。

⑧ 留学先での語学状況

語学は出来るに越したことはないです。英語がストレスなく話せると友達も出来やすいと思います。トルコ人学生も英語は上手いですが、ヨーロッパからの留学生は本当に流暢に英語を話します。こういった留学生と会話をしていると、何を言っているか聞き取れなかったり、自分の言いたいことが伝わらなかったりし、英語力不足を実感しました。一年を通して語学力に関しては苦労していましたが、特に初めの2ヶ月間は精神的にも厳しかったです。その後は間違ってもいいから取り敢えず話すという気持ちを持つことができたのと、勉強を継続的に行った効果が出始めた関係で、流暢ではないですが、会話を楽しむことが出来るようになりました。

講義が英語で行われている関係で大体は英語を使って生活していましたが、学生や教職員以外は英語が話せないため、キャンパスを出たとき等はトルコ語が必須になります。留学前には英語しか勉強せず、トルコ語は挨拶程度しか知らなかったなので、町に出るときや寮の職員の方と話すときは苦労しました。トルコ語の単語帳を持っていたので、それを指さし会話帳のように用いて何とか乗り切ったという感じです。しかし、トルコ人は、トルコ語を少しでも話せることが分かるとうごく嬉しがってくれ、外人に対しては元々親切ですが、さらに親切に対応してくれます。そういった態度を見ていると、留学前にある程度はトルコ語勉強してくれば良かったと後悔しました。これは英語が通じる中東工科大学の学生にも当てはまり、トルコ語が話せたらもっと仲が深まるかなと思うときがありました。後期からトルコ語の勉強を始めましたが、日本語と文法が似ているため、英語より習得しやすかったです。英語力もちろん大事ですが、現地の言葉も留学前に少しでも学ぶことが重要だと思います。

⑨ 単位認定、在学期間

奨学金受給の関係により、取得した単位を東工大にて互換予定です。また修士論文の執筆と就職活動は行っていなかったため、一年在学期間を延長します。

⑩ 就職活動

留学先では全く行っていません。しかし、中東工科大学に来ていた他の日本人留学生(他大)は、学期間の休みを利用して、トルコに支社がある企業にインタビューをしに行ったり、インターンの申請をしていたので、そういった活動をしていてもいいかもしれません。帰国後から就職活動を行う予定です。

⑪ 留学先で困ったこと(もしあれば)

留学終了間際に、学内を歩いていたところ犬に噛まれてしまいました。幸いにもすぐ病院に行くことができ、狂犬病のワクチンを接種することが出来ましたが、病院にワクチンがなかった場合、かなり慌てる自体になったと考えられるため、留学前に一通りの予防接種を打つことを勧めます。また治療費は高額でしたが保険から全額降りることになったので、保険は必ず入った方が良いでしょう。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

日本を離れて、海外で生活をするということは刺激的で楽しいものです。もう一度行けるならもう一度行きたいです。留学中は様々なことを経験し、時には悩むこともあるかもしれませんが、そんなときは、一度留学前の目標を確認して、再度その目標に向かって精進していくか、無理そうだったら目標を変えて、新たな方向に進んでいけば良いと思います。やはり目標がないと生活にハリがなくなると思うので、小さいことでも良いので目標は立てるべきだと思います。最終的に楽しかったと思えば良いと思います。留学生活が実りの多いものとなることを願っています。